2022年8月28日  川越教会

丸山　勉

勝利者キリストを信じる

［ヨハネの黙示録5章8～12節］

「巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、竪琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖なる者たちの祈りである。そして、彼らは新しい歌をうたった。

「あなたは、巻物を受け取り、その封印を開くのにふさわしい方です。あなたは、屠られて、あらゆる種族と言葉の違う民、あらゆる民族と国民の中から、御自分の血で、神のために人々を贖われ、彼らをわたしたちの神に仕える王、また、祭司となさったからです。彼らは地上を統治します。」

また、わたしは見た。そして、玉座と生き物と長老たちとの周りに、多くの天使の声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。天使たちは大声でこう言った。「屠られた小羊は、力、富、知恵、威力、誉れ、栄光、そして賛美を受けるにふさわしい方です。」

 [１] 私たちを突き動かすものとは？

私たちは「伝道」をすると言う時に、いわゆる「キリスト教」を伝道するのではないと思います。「イエス・キリスト」を伝えるのです。この違いは大きいと思います。8月は戦争のことを覚える月として礼拝も守ってきましたが、今も世界でロシアによるウクライナ侵攻が止まず、2月24から始まったこの戦いからもう半年を過ぎてしまいましたし、終結する兆しが全く見えない状況です。この時、ロシアのキリスト教はどうなっているのだろうと思っていましたが、ロシアには公の宗教としてロシア正教がありますね。その正教会の総司教は、プーチンの盟友であって、このウクライナ侵攻を後押しする発言を繰り返し、そして多くの信者もそれを支持しているという構図があるようです。何ということかと思います。しかし新聞で読んだのですが、これはおかしいと立ち上がっている司祭もいるということです。イオアン・ブルディンさん（50才）ですが、「汝、殺すなかれ」「隣人を愛せよ」と説教し、それを聞いた信徒が、ブルディンさんを反戦司祭だと密告し、彼は起訴されたというのです。今はあまり教会の仕事はせずに（出来ずに）、けれども週一度の信徒との対話や、ネットでアプリを作り、信徒たちの「告解」も聴くこともされているようです（これは素晴らしい！と思います）。ただそのことで、当局の摘発を恐れる人も多く、フォロアー数は1500人程に留まっているということです。ブルディン司祭の勇気はどこから来ているか。彼は「キリスト教」という組織に忠実なのではなく、彼を突き動かしているのは、主イエス・キリストです。そして、そのメッセージが彼をも生かしているのです。

［2］ 天に名が記されていること

今日は小田部さんが「バプテスマ」の時の話をして下さいましたけれども、私たちがバプテスマを受けるということは、たくさんの素晴らしい意味があると思います。当然のことながら「どこどこ教会」の一員になるということ以上のことですよね。私自身は恥ずかしながら当初「この教会の仲間に加わりたい」という意識が強くてバプテスマに憧れた所がありましたけれども、バプテスマを受けるということは、「私たちの名が天に記される」（ルカ10：20）いうことだと思うのです。初めから「どこどこ教会」というのを超えているのです。パウロも語りましたように「私たちの本国は天にある」（フィリピ3:20）ということです。

私が好きな言葉は「キリスト者は終わりから生きる」という言葉です。終わりの日の約束がある。そう。「約束」なのです。改めて思ったのですが、ああ、これは神様が私たちと結んで下さった約束だから力強いことなのだなあと思いました。これは大変おかしな約束で、「たとえ私が神様を忘れても、或いは裏切ったりしても、神様は私を忘れることはない、また、汚れに満ちた私を愛して下さる」という約束です。絶対的な愛、絶対的な憐みが私たちに注がれているのです。それを、「終末の預言」と言われている「ヨハネの黙示録」の中にもはっきり表れていると思います。

［3］「屠られた小羊」こそ天上の礼拝の中心

新約聖書の最後の書物「ヨハネの黙示録」は、迫害に遭ったヨハネがパトモス島で「終末の希望」の幻を見せられ、それを書き記すように天使を通してキリストがヨハネに告げた言葉となっています。その中で4章と5章は「天上の礼拝」が描かれています。この地上は権力者が我が物顔で民を支配していますが、終末においては最終的解決が与えられ、そこにはまことの支配者である主なる神様の統治があり、私たちはその天上の礼拝に与ると。4:11にはこうあります。「主よ、わたしたちの神よ、あなたこそ、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ、御心によって万物は存在し、また創造されたからです。」 ―主なる神が礼拝されています。ところが5章に入ると今度は、小羊としてのキリストが讃美の対象とされています。5:8から少し読んでみたいと思います。

「巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、竪琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖なる者たちの祈りである。そして、彼らは新しい歌をうたった。

「あなたは、巻物を受け取り、その封印を開くのにふさわしい方です。あなたは、屠られて、あらゆる種族と言葉の違う民、あらゆる民族と国民の中から、御自分の血で、神のために人々を贖われ、彼らをわたしたちの神に仕える王、また、祭司となさったからです。彼らは地上を統治します。」

また、わたしは見た。そして、玉座と生き物と長老たちとの周りに、多くの天使の声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。天使たちは大声でこう言った。「屠られた小羊は、力、富、知恵、威力、誉れ、栄光、そして賛美を受けるにふさわしい方です。」

ここで示されているように、この天上の礼拝の中心におられるのはイエス・キリストなのですね。そしてこのお方は「屠られた小羊」なのです！生け贄となった小羊、殺された小羊です。これほど権力や栄光から遠い存在はありませんね。でも、この存在がないと、私たちは本当の意味で安心して死んでいくことも出来ないと思うのです。「屠られた小羊」がおられるから、私たちはもう滅ぼされることはない。この方によって、私たちが神の国に受け入れられない不信仰や自己中心の罪の一切合切が、あの十字架上で始末されたのです！生け贄の小羊となって。だから、もう私たちと神様とを隔てる壁は無くなってしまいました。あなたもイエス・キリストの故に、この地上の生の向うに、天上の神の国の一員として迎えられる、かの日が用意されているのです。これが、罪深い歴史がきよい神の国に飲み込まれる歴史のゴールです。繰り返しますが、これは‟神様からの約束”です！キリスト者とは、この「終わりから生きる」人々です。「あなたがたはこの世では悩みがある。しかし勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」（ヨハネ16:33 口語訳）。―この勝利者キリストに信頼し、また方を待ち望みながら、許される限り、ご一緒に地上の礼拝生活を捧げて歩んで参りましょう。お祈り致します。

天におられる主なる神様、この8月もあなたが共にいて下さって、感謝いたします。8月は特にこの国や世界の歴史も振り返り、また、私たち自身の「時」ということにも思いを馳せる時として頂いていることを思います。今この時を誠実に生きることが出来るために、この世界と「時」をご支配下さるあなたと、また「屠られた小羊」主イエスと結びついて希望をもって生きて行くことが出来ますように。聖書は、私たちの真の神の国をへと招いて下さいます。*「この世の国は　我らの主と、そのメシアのものとなった。主は世々限りなく統治される。ハレルヤ！」*(黙示録11:15)。私たちの教会のこれからも、私たちの生も、あなたへの讃美の中に導いて下さい。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。